

乗り出せ青き道へ

海の古道を楽しみませんか



6月に入り、青い空を見上げると、夏がやってきたと感じる季節になりました。夏といえば海！熊野古道と聞くと、峠道の石畳の風景が印象的ですが、その昔は山の古道と並行し、船による海の道も盛んでした。現在では陸の道が発達し、交通が大変便利になりました。その反面、海の道は廃れ、今では限られた人々にしか利用されていません。しかし昔は、背後に険しい山がせまっている事から、



かつて栄えた須賀利漁港

この地方の材木や魚などの産物を大量に出荷する為に、船を頼りに海の道を使って運び出していました。船で名古屋、東京、大阪を直接結ぶ航海であった為、都会の新しい文化もいち早く届いた地であったようです。

その海の魅力を感じていただこうと、熊野古道センターでは、5月8日『新しい古道の歩き方・紀伊長島の海と陸の道をゆく』を実施しました。

日差しのととても気持ち良い波の穏やかな日に、



カンムリウミスズメ

“紀伊の松島”と呼ばれる紀伊長島の島々をクルージングしました。船に揺られながら見る景色は素晴らしく、国の天然記念物・カンムリウミスズメを海上で見られた事は感動的でした。午後はかつて多くの人が行き交ったこの海上と並行するように続く陸の道・熊野古道熊ヶ谷道を歩き、一度に海も陸も味わえる、貴重な旅でした。このように熊野古道センターでは、熊野古道でも陸と海の全く違う景観をお楽しみいただけるイベントを今後も企画していきます。何気なく見る海・山がひとつになった自然は東紀州の宝です。その魅力を多くの方々にお伝えしていければと考えています。



漁船でのクルージング



「逢川(あいかわ)の源流とシダを訪ねる会」Event Report

3月16日、熊野市の二木島にある、逢川の源流を訪ねました。今もその姿がかわることなく、清らかな



なせせらぎを湛えつづけている逢川には、多くのシダ植物が自生しています。また、民話や歴史も

残っていて、この場所だけ時間がゆっくりと流れているようです。

当日は、晴天にもめぐまれ、豊かな自然を体中に感じて、花尻薫講師(当センター長)の民話やシダ植物の説明を受けていると、民話の世界に迷い込んでしまったようです。時間が経つのも忘れて、逢川の源流周辺の植物や歴史ある明治道をじっくりと散策することができました。こんなに豊かに残る自然を、大切に守りぬいていきたいと感じたツアーでした。

熊野古道音楽祭 ～音のめぐり逢い～

5月6日、晴天にめぐまれたゴールデンウィーク最終日に、木本高校吹奏楽部・尾鷲中学校吹奏楽部、一般公募からの演奏者も含めての合同バンドによる演奏会が行われました。昔懐かしい曲から流行の曲



までが演奏され、訪れた聴衆を魅了しました。合同編成バンドによるステージでは、熊野古道センター開館を記念して、有名作曲家の林哲司氏による初の邦楽作品『熊野古道』の

吹奏楽での演奏に、尾鷲中学の生徒が合唱で参加し、初披露されました。



また、屋外では地元アーティストのミュージックグループ月虹、ブルーハワイアンズ、グランドボーイの演奏も披露され、心地よいビートが尾鷲の海山に響き渡りました。

音楽祭では、とても幅広い年齢層の人たちが入り混じった中で、音楽を通して、観客・演奏者が共に一体となり、同じ空間を楽しんでいただけたと思います。

まめ熊野塾 Guide & Tips

「植物好き、熊野に集う」

熊野地方はむかしから、自然を愛し、山や海を駆け回らずにはいられない人たち、ナチュラリストが憧れ、全国から集まった植物の宝庫です。江戸時代を代表する植物学者、小野蘭山もその一人でした。蘭山は享和2年(1802)に和歌山から大辺路-那智-本宮-新宮を経て東紀州を調査し、大馬神社や鬼ヶ城周辺、八鬼

山、尾鷲などを巡っています(『紀州採薬記』)。ナチュラリストが愛し、現在まで受け継がれてきた豊かな自然を今後どのように守ってゆくか、みんなで考えてゆかなければなりません。(6月29日まで企画展「熊野の植物画～ナチュラリストがやってきた!!～」を開催中)

→大福溪大台山巡会紀行(四日市市立博物館蔵) 鎌井愛子氏寄贈



「熊野大花火大会の歴史」

夏の一夜をあでやかに演出する花火。毎年8月17日は熊野大花火大会が行われ、この日だけは、熊野市の人口の10倍近い人が七里御浜に集います。先祖の盆供養として現在は広い浜辺で盛大に行われていますが、藩政時代は熊野市木本町の極楽寺の芝生で行われていました。昔熊野では、趣味として花火を作っている人達が多くいまし

たが、そこで初めて職業として花火製造をすることに成功し、現在も東紀州で唯一続けているのが、和田煙火店です。



7月19日からの企画展「熊野の匠たち-その手に業あり-」では、この地域の伝統を今でも継承している花火職人の姿もご紹介します。是非ご注目ください!!

紀南地域活性化協議会提供

Event Info. 企画展 「熊野の匠たち -その手に業あり-

7/19~ Sat.

開催期間/平成20年 7月19日(土)~9月8日(月) 場所/企画展示室
 時間/9:00~17:00 入場無料・期間中無休

熊野では昔から、その風土を象徴する様々な職人による生業が自然の恵みの下に営まれてきました。本企画展ではわっぱ職人、川船大工、大漁旗職人、鍛冶屋など熊野の匠(職人)たちとその技を紹介し、熊野人の暮らしを支えてきた質朴かつ精巧な工芸品の数々を一堂に紹介します。匠の素顔と気質、そして彼らの世代を超えた営みが、古今の熊野文化を垣間見せてくれることでしょう。



船大工 谷上嘉一氏(紀宝町)



曲げわっぱ ぬし熊(尾鷲市)

8月10日(日)・24日(日) 手業に学ぶ! 其の一 「森の守り神トチに触れる・木工職人体験」

ピロードのような光沢が美しいトチの木のフォトスタンドや、杉の恐竜、雑木ミスブーンなどを作ります。

◇時間:13:00~16:00 ◇講師:家具工房 はたなか(尾鷲市)

8月23日(土) 手業に学ぶ! 其の二 「日本一の漆黒岩石・那智黒石職人体験」

磨けば磨くほど黒く光る那智黒石で、オリジナルのペーパーウエイトやペーパーナイフを作ります。

◇時間:13:00~16:00 ◇講師:仮谷梅管堂(熊野市)

ひのきアート教室

月別

- 6月29日(日): 籠とアンパン作り 1,500円
- 7月27日(日) } 連続講座: 木枠灯 5,000円(電気器具は含まない)
- 8月3日(日) }
- 9月28日(日): 大福と木ナイフ作り・月見の宴 1,500円
- ◇時間:13:00~16:00
- ◇講師:NPO法人海虹路会員 ◇定員:10名
- 毎週日曜には、申し込んだその場で作れるひのきアート教室開催!
- ◇うちわ 1,000円(7・8月限定)
- ◇お箸 300円(市木木綿の箸袋付は600円)
- ◇木ポット 200円(木のロボット型飾り)
- ◇時間:13:00~15:00 ◇講師:NPO法人海虹路会員 ◇定員:応相談
- ※日程が変更となる場合有り。

熊野の匠たちプレ展示

7月5日(土)~7月12日(土) 藍染工房そめやなないろ展「藍の音色」

熊野の山深き里の澄みきった清流により染め上げた、日本の藍すくもによる藍染や柿渋染、草木染の作品を展示します。熊野の山々の恵みに満ちた藍色が織りなす空間にぜひお越しください。

◇時間:9:00~17:00 ◇入場料:無料
 ◇場所:企画展示室

7月6日(日) アコースティックギターデュオ・ナナイロ LIVE

「そめやなないろ」の本藍染職人、藤本夫妻のギター2本によるオリジナルインストゥルメンタルで、やわらかな調べを紡ぎます。

◇時間:15:00~ ◇入場料:無料

講座・講演

7月18日(金) 熊野古道講座「赤羽の古道と円通閣聖観音巡り」

熊野は観音信仰の篤い地域です。毎月18日の観音の日に因み、永昌寺の円通閣や大昌寺の格子天井絵などを見学し、赤羽街道を巡り、観音信仰について理解を深めます。

- ◇時間:9:30~15:00
- ◇参加料:300円
- ◇場所:紀北町紀伊長島周辺
- ◇講師:小倉肇氏(紀北町教育長・児童文学者) 花尻薫当センター長
- ◇定員:20名
- ◇共催:紀北町教育委員会



9月6日(土) 熊野古道講座「巨木と南朝遺跡めぐり」

南朝が滅びたあとの最後の末裔と言われる『尊雅王』が亡くなった地であると言われている熊野市飛鳥町。その菩提が祀られている『光福寺』や、飛鳥から五郷にある数々の巨木を訪ねます。

- ◇時間:9:00~16:00 ◇参加料:300円
- ◇場所:熊野市駅集合 ◇講師:花尻薫当センター長
- ◇定員:20名 ◇共催:熊野の自然を考える会

夏休みイベント案内

8月2日(土) 熊野どきどき体験学校 「どきどきトロッコ体験と熊野洞窟アニメ映画会」

熊野市紀和町の鉱山の歴史は古く迷路のように掘られた坑道が今も残っています。紀州鉱山について学びながら洞窟を探索して“どきどき”、ひんやりとした洞窟で少し怖いアニメを見て“どきどき”を体験します!

◇時間:12:40~16:30 ◇参加料:100円

◇場所:熊野市紀和町 (別途鉱山資料館入館料 大人:250円 子ども:100円)

◇定員:40名

◇主催:三重県立熊野少年自然の家・三重県立熊野古道センター

8月3日(日) 東紀州の四季を味わう料理教室

熊野古道周辺の特産品をメイン食材として「ほんとうに美味しいもの」を追求する料理教室。

- ◇時間:10:00~13:00 ◇参加料:2,000円
- ◇講師:相可高校 村林新吾先生 ◇定員:24名

8月14日(木) シダの拓本作り

- ◇時間:10:00~12:00 ◇参加料:300円
- ◇場所:体験学習室 ◇講師:七見憲一当センター理事
- ◇定員:20名

みえ尾鷲海洋深層水のお風呂

夢古道の湯

<http://ameblo.jp/yumeblo411/>



営業時間 ご入浴 午前10:00~午後9:00

入浴料 大人 600円(中学生以上)
 高齢者 500円(65歳以上)
 子共 300円(4歳以上小学生)
 4歳未満 無料



熊野古道がみ

熊野古道からの
てがみ

7 通目

熊野古道が世界遺産に登録されはや四年となります。

熊野古道伊勢路には、年間約十五万人が訪れています。観光バスによる熟年中心の団体客から小グループや夫婦づれ・若いカップルなど多様化の傾向にあり、地元にとって好ましい事だと思っています。

私は熊野古道の語り部や保全活動を始め十年になりました。この活動で一番楽しいのは人との出会いです。一例を紹介します。

四年前の秋に馬越峠で偶然出会った大阪の男性。名前がなんと「熊野さん」でした。自然風景写真家で熊野古道伊勢路をホームページで配信する為の取材中でした。その後一泊二日、月一回の頻度で約一年かけツツラト峠く通り峠の各峠を案内しました。まさに一期一会の出会いでした。彼は大阪の福友会という会のリーダーで、私はこのメンバーを伊勢路から熊野本宮を目指す伊勢路の全コースを案内しています。

現在馬越峠まで踏破し、次回は八鬼山越えを計画しています。この間古道だけでなく、紀北燈籠祭や熊野古道センター・楯ヶ崎・熊野大花火・鉾山資料館など地

域のイベントや名所も案内しました。私がお

大阪に出向き熊野古道紀伊路の出発点、八軒屋く住吉大社津守王子を案内して頂いた事もありました。

彼らの楽しみは東紀州の旬の山の幸を食しながら伊勢路を踏破する事で、私も一員となって楽しくエスコートしております。

このように語り部の活動を通じて様々な人との出会いがあります。語り部友の会では新しい語り部を育成する養成講座を毎年行っています。あなたも語り部や熊野古道の保全ボランティアの仲間として一緒に活動しませんか。ご連絡をお待ちします。



たまつ みつる
玉津 充さん(紀北町)
熊野古道語り部友の会
海山熊野古道の会会長



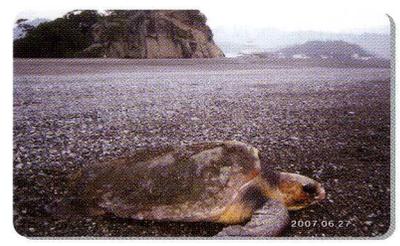
次は熊野市の
川邑 まつよさん

花尻薫からの季節のたよりNo.7 「竜宮城はここだ！」

カメが地球上に現われたのは約25億年前だそうです。最初は沼や河口に住んでいたグループが海に生活場所を求めて移り住み、ウミガメになりました。ウミガメは産卵のために上陸する以外は海中生活です。海面で空気を吸い、肺に空気をためて2時間以上も潜水します。スッポンやイシガメは完全な淡水生活で陸ガメです。陸ガメは首・手・足が甲羅に入りますが、ウミガメはそれが出来ません。

熊野古道浜街道も通る七里御浜海岸はアカウミガメの上陸でよく知られています。5月に入ると産卵のために上陸しますが、海岸の浸食で環境が悪くなり、昔のように産卵なくなりました。卵から約50日で子ガメになり、子ガメはやっと海に戻ります。再び生まれた海岸へ帰っ

てくるかどうか、まだ証明されておりません。子ガメは生まれた海岸のにおいを覚えているらしいことは分かっていますが、確かではありません。



浦島太郎は竜宮城へ招かれました。そこは濟州島(朝鮮半島の近くの島)の南、約200kmほどにある水深100mほどの大陸棚付近であろうといわれています。この場所は冬でも暖かくて、親ガメの生活に適しているようです。5月になると、ここから暖かい海岸へ産卵の為に上陸します。

おめでとう！ 世界遺産4周年

「紀伊山地の霊場と参詣道」が7月7日で4周年を迎えます。これを記念し、当地方の様々な団体が、イベントを行っています。当センターでは、熊野古道写真学校スタッフによる熊野古道写真展を交流棟ロビーにて開催いたします。

開催期間：7月1日(火) ~ 7月20日(日)
入場料 無料



- お車：国道42号線で尾鷲市内一矢の浜南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車：JR尾鷲駅下車→(徒歩5分)三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

☆熊野古道センターニュースレター☆ “熊野古道センターからのてがみ Vol.7”

- 発行日：2008年6月20日(季刊)
- 編集・発行：三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当：野田
- 連絡先：〒519-3625 三重県尾鷲市大字向井字村島12番4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com H P http://www.kumanokodocenter.com/
- 開館時間：午前9時～午後5時
- 入場料：無料
- 休館日：12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館) 60000080620RN